

あかしんぶん

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

各種地図調整・印刷/地理情報システム
立体地図・地図模型・地図パネル・地図掛け軸
オンデマンドデジタル印刷・大判ポスター出力



株式会社 **アルプス出版**
〒461-0004 名古屋市東区葵一丁目15番18号
オフィスサンナゴヤ 6F
TEL.052-931-1009 FAX.052-932-1312
<http://www.alpspublishing.co.jp/>

企画・制作：株式会社 新聞ビル

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』就職 —自分ドラマつくろう— (129) 岡田清治



■プロフィール

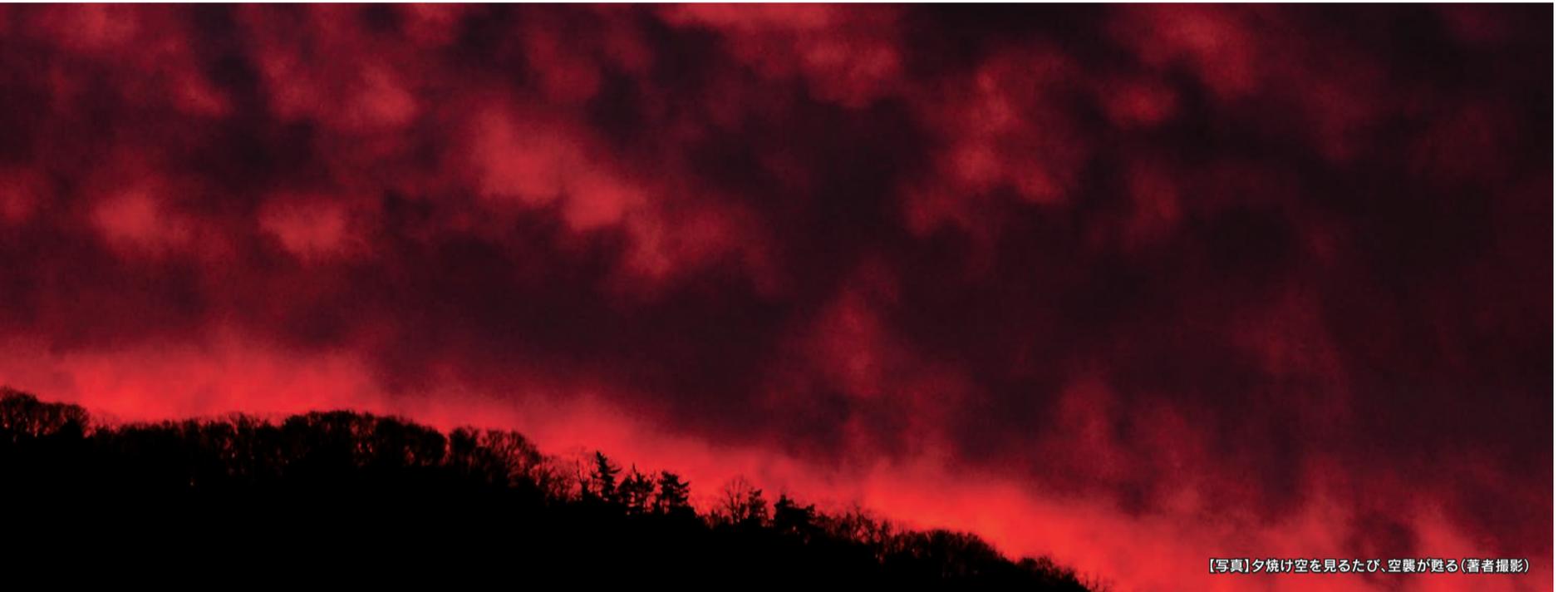
著者：岡田清治 (おかだ・せいじ)

1942年生まれ ジャーナリスト(編集プロダクション・NET108代表)

著書に『高野山開創二百年 いっぱいさん行状記』『心の遺言』

『あなたは社員の全能力を引き出せますか』『リヨンで見た虹』など多数

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を下記のFAXかメールでお寄せください。
今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」「インド」「愛知県」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。
FAX: 0569-34-7971 メール: takamitsu@akai-shinbunten.net



【写真】夕焼け空を見るたび、空襲が響く(著者撮影)

ドラマは続く

日本はすでに満州事変をきつかけに、戦争への道をまっしぐらに走り出していた。この年、政府と軍当局にゆきつまりと生活物資の不足で不安と焦燥にかられる国民を元気づけるため、神武紀元二六〇〇年の祝賀会を全国で盛大に催した。千早村でも村あげて二六〇〇銭郵便貯金を計画した。しかし、世相は暗くなるばかり。

年が明けると、小学校は国民学校と名付けられ教科書も軍国調に変わった。コメの配給が通帳制になり、いよいよ国民の暮らしは苦しくなった。近衛内閣が総辞職してタカ派の東条英機が首相に選ばれた。日中戦争の行き詰まりと、A B C D包囲陣による経済封鎖を打開するため、大本営はついに、「ニイタカヤマノボレ」の暗号電文を打電、真珠湾攻撃を決定した。

世は戦争一色に塗りつぶされた。齊造も兄の忠信と同様、入隊すれば幹部候補生の試験を受ける決心をしていた。十七年九月、神戸商大を卒業、一旦、神戸製鋼所に入社するが、十月に入隊通知が届いたので、幹部候補生を目指して陸軍短期現役試験を受ける。四十人受けて落ちるのは五人程度。だから齊造は合格する自信をもっていたが、身体検査の当日、風邪をこらせていた。

一週間後、不合格の通知を手にした瞬間、どん底に突き落とされた恐怖感に襲われた。(使用人と奉公人、いや貴族と労働者の落差のようなものを感じたからだ。これで一生、偉くなれない。俺の前途は真つ暗闇だ。なにくそと思ってもトライするチャンスは再度めぐってこない。学歴のない上等兵になぐられ、いじめられながら死ぬまで土方のような力仕事から抜けられない。炎天下でのミカンづくりのつらかった日々が甦ってくる。自分より成績の悪いヤツが合格しているのを知って、一層腹立たしさを覚えた)

運命とは皮肉なものだ。地獄へ落ちたと思った者が生き残っている。甲種合格した見習い将校たちは中国に渡り、しばらくすると少尉に任官される。そのうち連帯の編成に合わせてフィリピン、マレー、南支と南方各方面に小隊長になって派遣された。その半分以上が若い命を落とした。兵隊で階級が二等兵と決まったときは苦しんだが、今となってはそれが幸いしている。

「柳原君。人生は闇夜ばかりではないということだよ。月夜の夜もかならずある。企業でも出世してええことばかり続くわけがない。安心したり油断したら悪くなる。どん底もずっと続かない。これから先、どんなつらいことでも決して悲しむことはないですよ」

柳原は片桐齊造の強靱さを垣間見たように思う。作家の城山三郎は、小説『打たれ強い』の中で、企業も逆境を経験し、かいくぐれるほどに強くなると言っている。企業もそうだろうが、人間こそ打たれるほど強くなる。打たれても打たれても耐え忍んで

くるところだ。

「大阪の馬場町のNHKの前ですと、運転手が声をかけたが、片桐はほかのことを考えていた。片桐は部隊の経理室に勤務、酒保(兵隊に酒や饅頭を売る所の商品仕入れ係であった。三ヶ月に一回、南方派遣名簿が発表され時々、儂の名前も載るんだが、仕入れ係がいなくて困るといふんではまずさされていたんですよ)」

二等兵は内地でも下働きで辛い、外地に行くとその比ではない。最新線ですす若い二等兵の生命が消える。それが戦争だった。そのことは企業戦争でも同じで上役ほど得しているが、戦争のように生命を失う心配はそうない。もともと、貿易摩擦でやむなく海外へ進出、戦争、誘拐、事故等に巻き込まれるケースも増えているが…。

片桐は仕入れの仕事のほかに遺骨資料の受付も担当、連隊に送っていた。(こんなに多くの遺骨があるということ、自分もいつかは死ぬんだと時々胸が締め付けられる思いをした。入隊拒否で監獄に入っても三年で解放されるのに、二等兵は永遠に続く。いつ南方に派遣されるのだろうか、ずっと死の恐怖が離れない。)

「片桐、お前はフィリピン行の噂だぞ」
企業の人事と同じである。人事の季節になると、なんとなくそわそわしてくる。噂が耳に入る。南方行きは、死を意味していた。企業でもそうだが、あたかも知っているかのように言い寄ってくる輩がいる。

弟の操は天理外国学校を卒業。召集令状の赤紙が届いた。三カ月後に福井の鯖江連隊に入隊したが、その後の足跡はわからない。 「戦争に行くことは国のために死にいくことだ。『戦争に行くことは国のために死にいくことだ。』(しゃおまへん)」

操は父、藤太郎の見送りを受けた時に、残した最後の言葉である。操が沖繩で戦死したことを知らされたのは、戦争も終わり、齊造が千早赤阪村の助役をしていた昭和三十一年の春であった。

千早小学校南端の岸壁を背に平和を願う仏像を刻んで慰霊祭が催された。昭和二十八年のことであった。 「補氏この方、平和愛の血統を受け継いできました。わが千早村からも日清、日露以来、幾度かの戦いに出陣して遙かなる大陸の荒野に、果てしなき海原のかなたに、草むす屍、水漬し屍と、散華された方々を数えるに百三柱、今その英霊をお慰し、永遠に郷土千早村の守護神としての象徴たる忠魂碑を建設して…」

か」

柳原は片桐の戦争観を知りたかった。関西財界が防衛費をGNP比率1%の枠を取っ払えと主張、キナ臭い時代を感じさせていたからだ。 「あんしんしんじょうは、絶対やらんよ。はい、そうですかというわけにはいかんよ。独立国として必要最小限の防衛でよい。日本が先頭を切って戦争することは絶対にかん。われわれの年代の人間ならみな知っているよ」

齊造は幹部候補生の試験に落ちたが、ソロバンを持つ兵隊になったことは唯一の救いだった。しかし、二等兵だから日本が勝利するまで希望は何一つない。 「その時はこれ以上、残念無念のことはないと思っていただよ。日本が戦争に負け、時代が変わるんだね。信じられなかった」

片桐はその時の経験から嫌なこと、気に入らないことを避けてはならないと信じている。戦争を逃れようとする者は、役場の役員をだまし、戸籍を抹消する者もいた。あるいは食事をせせり骨と皮になって徴兵を免れた。片桐と同じ部隊でも饅頭を食って便所、首を吊る者、また耳から醬油を注いで気狂いになつて逃亡する者もいた。兵舎の便所は落とす式だから、台がなくても首吊りができる。醬油を一合飲んで百メートルを全力疾走すれば高熱がでるといふ。戦場で爆弾の炸裂する音を聞いて気が狂った者もいる。戦争は実に残酷である。しかし、そのようなことをする者はごく一部であったし、嫌なことを避けても後からかならずツケがきた。片桐の手に目を追って遺骨資料は増える一方である。

昭和二十年になると、アメリカ軍は本土攻撃を開始した。大阪府下で最初の空襲は十九年十二月十九日、B29一機が松原市を爆撃。年が明けると、爆撃は一段と激しくなる。三月にはいよいよ無差別じゅうたん爆撃、焼夷弾による空襲が本格化し、十三日から十四日未明にかけて第一回夜間空襲があった。

片桐齊造の父、藤太郎が夜中一時を回ったころ、なんとおなじに家の外に出てみると、蔵の白壁が府下一円の空襲による猛火で真っ赤に染まっているのだ。 「のぶ、大変だ。大火事だ」

藤太郎は家の中に駆け込み、バケツを持って用水槽に向かっている。それほど火が近くに見えた。 「この分だと、齊造も助かるまい」

両親は大阪市内の方を見やりながら半ば呆然とした。B29、90機が約7万個の焼夷弾を投下、大阪は地獄絵図と化した。空襲警報のサイレンが鳴り響く中、着の身着のまま民衆が逃げ惑う。大阪のシンボルの通天閣も焼け落ちる。 齊造は大阪中部第23連隊にいた。大空襲の日、点呼を終えベッドにいた夜の十時、非常呼集があり、完全武装で庭に整列させられた。上空を米軍の爆撃機が数機隊をなして飛んで行った。空を見上げる、そのあとには星が遠くで輝いている。

『もうろくじいさん もうろくじゆうさん』 藤間 勘萃



「幼稚園ぼつこの廊遊び」

こいつあ大変に滅茶苦茶な話なんですけど…何ね、母方の伯母が芸妓をしていたコネで、あたしあ週末になると廊遊びに出掛けて行つたんです。廊といつても、そこは既に廃業していた妓楼だったんですがね、そりゃもう不思議な処でした。手取り早い話が時代劇に出て来る遊郭。まず広い玄関を入ると少し高い所に帳場(客が勘定を済ませる)があつて、左つ側には大つきな階段、えつと、帳場の裏には板場(広いキッチン)がありましたっけね。一階の奥には座敷がいくつもあつて、玄関脇の階段を上がつていくとえと中庭を取り囲んで座敷がずらりと並んでました。階段も方々にあるし、そもそも建物の造りが込み入ってましたんでね、幼稚園ぼつこにとつちやあ迷宮だったんでございましょう。

江戸の昔、こういつた妓楼は芝居の題材になり、音曲を育み、俳諧を隆盛へと導いたのだと伺つています。



この幼稚園ぼつこが、師匠がたの献身的な鞭撻のもとでそこそこ精進して、藤間勘十郎(宗家 藤間流七世)から「勘萃」の名を頂戴したのは、まあ、無理からぬ話かもしれせん。

芸事で飯を食うには

大雑把に言つて二通りの道があるように思います。一つは舞台上立つ、もう一つは指南する。

駆け出しの頃は誰もが舞台から引つ張りだこてえわけにやまひりませんから、まずは指南すること(稽古やレッスン)で身を立てようとするんですね。あたしの場合は、この「指南する」てえのが相当な早咲きでね、何しろ高校生の

分際で師匠の代わりに今で言う「生涯学習センター」で教えていたんですから。名古屋市、岩倉市、尾張旭市の役所から高校生だったあたしの銀行口座に毎月お給金が振り込まれていた…今思えば恐れ多いことで、昭和てえのは大らかな時代でしたねえ。

でね、音楽大学を卒業する頃にや街なかの音楽教室でもつて毎日のようにレッスンするようになっていたんですけど、自分でもつて稽古場(教室)を構えるのならともかく、音楽教室で講師をするてえのは、たとえ「先生、先生」と呼ばれようが身分はただのフリーター(フリー・アルバイト)でございましょう。昭和の頃にやそんな洒落た呼び方はありません、ふう太郎です、ふう太郎。

20代の半ばを過ぎる頃、有り難いことに師匠の後釜として大学の教壇にも立つようになって、舞台からもお呼びが掛かるようになったんで、「えい、やつ」とばかりに出稽古を畳んだんですけど、実あ今でも二つ所だけ週末になると出稽古に出向いてるんです。

そこはね、あたしが駆け出しの頃にヤマハの講師として派遣されたところ、初心忘れるべからずというか、義理堅いというか…。



出稽古にや様々な年齢のお弟子さんが通つて下さいますけど、一番年若いのは4歳の柚月ちゃん。お稽古の初めに、小ぢやい両手を膝の上になちよこんと乗せて「どうぞ、よろしゅうにっ」と挨拶してくれます。

「なんですわね…この子は、ラッパ飲みなんかしてお行儀の悪いっ！」

小さい時分にや、よくこんな風に叱られたもんです。ラッパ飲みてえのは、ご存知の通り、飲み物を器に注がないで瓶からじかに飲むあれのことです。今じゃあ多くの飲み物がペットボトルに入つていて、麗しい乙女までもが平気でラッパ飲みを披露してくれるんですから、時代てえのは変わるもんです。

お行儀といえはね、あたしや幼稚園ぼつこのうちから、お箸よつとナイフとフォークでもつて食べるのが得意でした。それが、うちの父(名古屋で一番の盛り場「錦三丁目」で生まれ育つたシティーボーイ)の躰だった

のか?生まれもつての左利きを右利きへと直されたせいであったのか?分かりやしませんけどね。

でもこの父から男子としての流儀を教わりましたし、弟なんぞは高校生の時分からガールフレンドを仏蘭西料理店へエスコートしてましたよ、きちんとネクタイを結んでね。



時代が良おございましてね、近頃の20代、30代、そして40代の男子にもそんな「粹な真似」をして欲しいものです。

そうそう、作曲家としてデビューした時あ大ごとでした。

何しろ30歳そこそこの駆け出しが「世界デザイン博覧会」テーマ館の音楽を手掛けさせてもらうんですからね。あの時、プロデューサー竹内正美は、あたしと心中する腹を括つてくれたのじゃないかと、今でも恩に着いていますよ、ちよつと大袈裟ですけどね。

で、この竹内プロデューサーのもとでは、開局70周年「花の舞・花の宴(NHK)、紀南健康長寿推進協議会テーマ曲「心はいつも春(三重県)、市制50周年ミュージカル「オーバー・ザ・レインボー」(碧南市)、合唱と管弦楽の「生まれたから(名古屋市)…」などなど、専ら行政と関わるアカデミックな仕事に携わってきたんですけど、彼が居住まいを小原村に移してから、不思議なことにあたしの紡ぐ音も様変わりしました。「孫たちへのバトン」、「とよた50景 四季を歌う」、「観カンノン音」音を観る(ともに豊田市などが主催)では、こともあろうに五・七・五・七・七の短歌を合唱曲やら歌曲やらに紡ぐ案配になってきましたね、とは言つてもオペラの管弦楽を手掛けながらのことだったんですけれど。

さらに、ここ数年うちに手掛けさせていただいた合唱曲「弥陀観音大勢至」(600年の時を経て尚も在り続ける名刹「深井丸・興西寺」所蔵)、「おとほぎ」(「あいちオカリナフェスタ」テーマ曲)、読経を音楽に紡いだ前人未踏の最新作「正信偈草四句目下」(美濃路に佇む名刹「光壽山・阿彌陀寺」所蔵)でもつて、あたしあ日本舞踊家として音紡ぎをするようになった…という気がしています。



小咄「ウキスキー」

「だってね、師匠は仕事の合間に酒を呑むんじゃないくて、酒の合間に仕事してるんだもの」なんて謂れの無いお言葉を度々頂戴するんですがねえ、心外ですよ、あたしあ酒を呑みながら仕事してるんですから。で、悔しいからこう言つてやるんです。



「何もね、あたしが酒好きでえわけじゃないんだよ、酒の方が、あたしのことを好いて好いて、こうして首んとこに抱きついて放してくれないんだ♡」

小咄「ミュージシャンって」

近頃じゃ音楽の催しを引つ括めて「ライブ」と呼んでおるようございませうが、昭和の芸人のあたしにやこの風潮に馴染めませぬ。

世に名乗りを上げた(デビューした)ミュージシャンがホールや野外イベントで数百人から数千人を集めてのコンサートと、自称ミュージシャン(学生から社会人までの素人さん)が街なかの小ぢんまりとしたカフェなどで顔見知りや数人集めて催すものが一緒のはずは無いのでございませうから。

素人さん方のライブはあくまでも道楽なので、木戸銭(ライブチャージ)なんぞを頂戴せず身銭を切つて聴いていただくのが本筋、だって、草野球の試合に観戦料が要るなんていう話は聞いた事ないでしよ?

そんな小ぢんまりとしたライブにも二つほど例外はございませう。一つは、日頃はホールや野外イベントで活躍するミュージシャンを数十人だけで間近に聴こうてえ贅沢なライブ。そしてもう一つは、そのミュージシャンの芸が実り過ぎていて最早限られたお客さまにしかそれを堪能できないといった究極のライブ、こちらはライブというよつと、高尚な「お座敷」と呼んでみとうございませう。

小咄「CDの注意はありません」

「あのう、CDは出してらっしゃらないのですか?あれば買いたいんですが…」と訊ねられることがあるんです、ホールでの演奏会を終えた帰りがけのロビーなんかでね。あたしあ録音を残そうとは思いません。だって、そうでしょ?明日になったら今日よつと上手に弾けるんですから、ふっふっふ。

「バツハの伝道師になる」

と高校での作文で夢を綴ったあなたは、師匠の指南のお陰で、高校3年にしてクラシック・ギターリストとしてデビューすることができました。

でも、様々な音楽ジャンルを行き来できるギターが必ずしもバツハ弾きにとつての良き伴侶というわけじゃありません。20代半ばでバロック・リュート(バツハの頃300年前の西洋琵琶)に転じたのでございます。

バツハとの蜜月はそりゃもう長く続いておったのですが、ここへも日本舞踊家として作曲しているあたしが割り込んできて、京がたり「ひいさま 藤間勘萃」と相成ったのでございます。

この数年に及ぶ疫病のもと、あたしが培ってきたバツハにや、へえ、ついぞお呼びが掛かりませんでした。でも有り難い事に、京がたり「ひいさま 藤間勘萃」と結婚式場での「婚礼ピヤノ」は世間さまから遠のけられることはありませんでした、そりゃそうですよ、ここは日本なんですから。



人情唄「質屋の主人」

質屋の暖簾をくぐってみると、年季の入ったカウンターがありましてね、もの静かな女将がそこに居ました。で、あたしが抱えてた「何か得体の知れないモノ」を訝しげに見ながら、分厚い力タログみてえなものを差し出したんです。そこには家電製品から宝飾品までのありとあらゆるモノが写真入りでぎっしりと載ってましたけど、何しろあたしが

手にしていたのはバロック・リュートでしょ?載ってるわきゃやあない。恐る恐る「これなんですが」とケースを開いて見せるとね、目を胡麻みたく点にした女将が言ったんです。

「こういう物はうちでは扱ひ兼ねますが...そうそう同業の「〇〇屋」さんでしたら何とかなるかと...あそこは古美術品なんかも扱ひていますから...」

「そこを何とか...」 困り顔の二人の間で行ったり来たりする問答に、奥の方から一声響きました。「それは、その方の商売道具だ、必ず取り返しに来るから、要るだけ貸してやんな。」

あれは確か...バロック・リュートに転じて間もない頃、37年ほど前でしたかねえ。何しろそれまでの演奏家としてのあれやこれやを全部投げ打ってしまったんですから、そりゃあ舞台からお呼びなんぞ掛かるわけもなく、鍋の蓋もあきやあしません。

昭和が平成に、そして平成が令和になった今でも、あたしはあの時の声の主は一体どんな風貌をしていたのだろう...と思うことがあるんですよ。



藤間勘萃 (ふじま かんすい)

1958年に名古屋で生まれる。日本舞踊で江戸を踊り(宗家 藤間流名執として)、西洋琵琶でバツハを弾き唄い、作/編曲家としてオペラから演歌までを手掛ける...そんなふうで、三足の草鞋は満遍なく擦り減っておるのでございます。

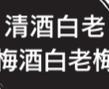
- 1980 中部日本ギター協会「協会賞」
- 1982 名古屋音楽大学 音楽学部 作曲学科を卒業
- 1984 日本ギタリスト会議「最優秀新人賞」
- 1984~2003 日本福祉大学 社会福祉学部にて教鞭を執る
- 2006~2018 琴修会、ライリッシュ・オカリナ連盟 音楽顧問
- 2021~ 東海学園大学 教育学部にて教鞭を執る

感謝 -古式伝承の酒造りを これからも守り伝えます-

日本でも数少なくなった「麹ふた」による手造りの麹造りを復活しました。大変多くのご支援・ご声援のおかげで、新酒仕込みも順調です。お近くの酒販売店様でぜひ新酒をお求めください。

今後とも澤田酒造 白老をどうかご愛飲くださいますようお願い申し上げます。酒蔵開放は、コロナが落ち着くまで延期させていただきます。

醸造元 澤田酒造株式会社 〒479-0818 愛知県常滑市古場町4-10 営業日:月~土 9時~17時 TEL:0569-35-4003 FAX:0569-35-6953



2022 ねのひ 蔵直販売会

2022年 2/11(金)・12(土)・13(日) 10:00~16:00 盛田 味の館

- 蔵開き限定酒等の販売、清酒有料試飲(1杯100円~)
- 11日(金)...福袋販売(無くなり次第終了)
- 12日(土)...みそ量り売り
- 13日(日)...奈良漬け詰め放題

※新型コロナウイルス感染拡大状況により延期になる場合がございます。詳しくは盛田味の館Facebook、盛田株式会社ホームページでご確認ください。 URL | http://moritakk.com/

お問い合わせ先 盛田株式会社 〒479-0807 愛知県常滑市小鈴谷字亀井戸21-1 小鈴谷工場 TEL(0569)37-0511

盛田味の館 〒479-0807 愛知県常滑市小鈴谷字脇浜10番地 TEL(0569)37-0733 (火・水曜休館)

知多の新鮮たまご 発酵ケイフン

(有)知多エッグ 知多郡武豊二ツ峯380 TEL0569-73-6341

名工たちの作品を 多数ご用意しております

常滑焼 急須卸販売 株式会社まるふく

まるふく 〒479-0845 常滑市森西町2丁目46 TEL(0569)35-2209 FAX(0569)34-5745 info@e-marufuku.net ●営業時間 AM9:00~PM4:00 土・日・祝日休みです

Quality Foods

イシハラフードは お客様と共に 「安心」「安全」「おいしさ」を食品を通して考えています。



確かな味、信頼の品質、地元商品の育成。

わたしたちには「こだわりの商品」がたくさんあります。(株)イシハラフード・常滑店 ☎(0569)35-5355 正月も通常営業いたします(1月4日のみお休みいたします)

ジェム電子水を使った手作りパン&クッキーの店

パン工房 ジェムパン

あかい新聞店 新聞配達員 大募集

詳細は担当 赤井まで!

1886年創業。地域とともに135年。

半田中央印刷のトータルソリューション 印刷の枠を越え、総合的な「価値」をご提供します。

クリエイティブ デジタル 空間 印刷 マーケティング 経営コンサル

P.T.C. GROUP 〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地の21 TEL.0569-29-2525(代) FAX.0569-29-4500

半田中央印刷株式会社 知多四国めぐりの お供にどうぞ 納経帳をはじめ、弘法参りの関連書籍を販売しています。お電話にてお問い合わせください。

わが家のニューフェイス



中野 煌介(3才) 琉生(6才) 希華(8才) 武豊町

写	し	や	い	い	る	る	竜		さ	僕	の	ほ		よ	と	が	ん
真	て	う	つ	恐	だ	し	の		中	な	名	じ		か	呼	び	ち
・	、	ん	も	竜	だ	、	お		野	ん	前	め		け	ば	す	は
文	隠	だ	パ	食	ど	名	も		架	だ	前	ま		し	れ	。	は
	れ	。	パ	べ	、	前	ち	華	か	は	し	て	。	。	。		
	ず	。	ヤ	ラ	本	も	ャ		い	。	。	。	。	。	。		
	見	だ	マ	れ	コ	物	も		け	。	。	。	。	。	。		
	て	け	マ	そ	イ	み	い		を	。	。	。	。	。	。		
	お	ど	の	う	イ	た	？		呼	。	。	。	。	。	。		
沖	よ	今	後	に	け	い	ほ		び	。	。	。	。	。	。		
中	う	度	う	な	い	ん	い		ま	。	。	。	。	。	。		
	か	は	に	る	、	知	持		。	。	。	。	。	。	。		
一	な	勇	に	か	近	？	っ		。	。	。	。	。	。	。		
生	。	気	隠	ら	く	。	て		。	。	。	。	。	。	。		
		を	れ	ら	に	い	い		。	。	。	。	。	。	。		
		出	ろ	、	い	よ	い		。	。	。	。	。	。	。		

愛とMy Family



中野 ずず(4ヶ月) 妃依(1才8ヶ月) 常滑市

写	ん	く	声	さ	も	ぎ	つ	声		よ	と	が	こ
真	と	大	び	れ	ら	ャ	上	び		く	呼	び	ん
・	遊	き	泣	た	っ	ー	の	泣		す	ば	す	に
文	ん	く	い	り	こ	ヤ	お	く		。	れ	。	ち
	だ	な	こ	す	い	ち	姉	の	。	。	。	は	
	り	っ	助	る	ま	ャ	ち	が	。	。	。	。	
	お	こ	け	け	。	し	ゃ	得	。	。	。	。	
	出	ぱ	を	ど	。	ん	ん	意	。	。	。	。	
	か	ぱ	呼	を	た	が	が	び	。	。	。	。	
中	け	マ	び	の	ま	い	い	す	。	。	。	。	
	し	マ	ま	時	に	ま	可	。	。	。	。	。	
	た	お	す	は	い	。	愛	私	。	。	。	。	
架	い	姉	。	大	じ	。	が	に	。	。	。	。	
華	な	ち	は	き	あ	。	。	毎	。	。	。	。	
	。	や	や	な	る	て	日	一	。	。	。	。	

人と人をつなぐ 『かけ橋』になりたい



タオル・繊維商品及び輸入雑貨等総合卸

名城商事株式会社

愛知県名古屋市中川区乗越町1丁目37-3
TEL (052)362-1531(代)

ヨーロッパアンティーク展

2022年1月12日(水) → 25日(火)

■名鉄百貨店 本店 [本館] 10階 美術サロンI・II
■営業時間 10時 → 19時 ※最終日は17時閉場
お問合わせ=052-585-2841

アルフォンソ・ミュシャ 「ロレンザッチオ」 仏 1896年 76.5 x 34.7 cm	ルネ・ラリック 白鷺文花器 仏 1926年 φ21.0 x H25.0 cm	エミール・ガレ 蓮文花器 仏 1900年 φ16.2 x H17.8 cm	ヴェネチアンガラス 中世人物文コンボート 伊 16C φ13.3 x H12.0 cm	トーマス・ウェップ アイボリー・カメオガラス花器 英 1880年頃 φ9.8 x H15.7 cm		

19世紀から20世紀初め頃の気品溢れる西洋骨董の逸品を一堂に集めて展覧即売いたします。ぜひ、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

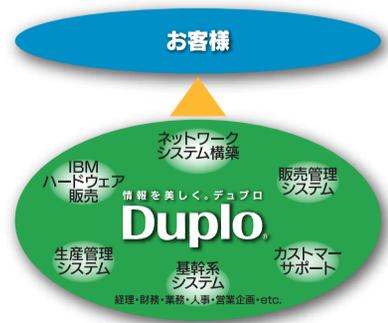
デュプロ販売株式会社 (名古屋)

東海・北陸地区発売元

デュプロは
コンピュータネットワークを活用した、
お客様の新しいビジネススタイル
“e-BUSINESS”を提案していきます。

情報を美しく。デュプロ

Duplo
from print to documents



デュプロ販売株式会社

〒460-0015 名古屋市中区大井町4番19号 TEL(052)321-2020